

千葉県立松戸南高校 訪問 (H27. 1. 28) 報告

1 設立の経緯について

千葉県教育委員会の高等学校再編計画により、全日制の課程に加え、平成 18 年 4 月に千葉県で初めての三部制（午前部、午後部、夜間部）の定時制の課程を設置し、単位制と 2 学期制を導入。昨年度（平成 25 年度）末に全日制の課程を閉じ、今年度から三部制定時制の課程の独立校として新たなスタート。生徒数は 858 名で県下唯一の大規模三部制独立校。

2 三部制について

午前部・午後部・夜間部の 3 つの部から成り立つ。自分の所属する部で、毎日 4 時間ずつ授業を受け、4 年間で 74 単位以上を修得することで卒業（四修制）。他の部の時間帯の授業をプラスして受けることで 74 単位以上を修得すれば、3 年間で卒業することができる。（三修制）例えば午前部は午前中に 4 時間の授業を受けて 4 年間で卒業を目指す。午後から三修制向けの授業を受けたり、部活に参加することが可能。

3 学校の特色について

- ・自分で学習時間帯を決める・・・午前部・午後部・夜間部。
- ・中学からの橋渡しの学習がある・・・1 年次に国数英は習熟度別クラスに分かれ国語基礎、数学 I 入門、C 英語基礎の授業から始まる。
- ・3 年間での卒業可能・・・1 年次後期から三修制向け授業もスタート（1 日 6 時間授業）。
- ・教育相談体制が充実・・・パーソナルチューター制度（全職員のプロフィールを掲示して生徒自身の希望によって相談者を選べる個別の副担任制度）、教育相談研修会が年に 6～7 回、中学校や適応教室の先生方対象の授業見学会、毎週保健室・担任団・カウンセラー間で情報交換、教育相談だより発行 等

4 不登校について

60%以上が中学時に長期欠席者。高校ではそのうちの半分くらいの生徒が改善傾向にある。中学校に 1 日も登校できなかった生徒でも卒業し進学・就職した実績あり。卒業できる割合は 60～80%。

5 部活動について

活動時間は 15 時以降。午前部の生徒は活動時間まで待つことになり、午後部の生徒は授業が終わってから（16:40 以降）。授業で活動場所を使用している場合、部活動はできない。今年度の加入者数は 255 名。定時制通信制高等学校体育大会全国大会に柔道部、剣道部、卓球部、バドミントン部、バスケットボール部、陸上部が出場。

6 生活面について

頭髪、服装の指導はある。制服は標準服があり、普段は私服でも可能。式典は標準服（に準ずる服装＜男子：ネクタイ・ブレザーかスーツ、女子：ブラウス・リボン、ブレザー＞）を着用。アルバイトは届け出制で認めるが、学業に悪影響を及ぼさないことなどが条件。

7 進路について（H25 卒業生徒総数 138 名）

- ・大学 14.5%
（東京芸術大，茨城大，日本大，文教大，東京家政大，日本体育大，拓殖大 など）
- ・短大 0.7%，専門 20.3%，就職 19.6%，アルバイト 21.0%，未定・その他 23.9%

8 頂いた資料

- ・学校説明パワーポイント資料
- ・学校要覧
- ・学校案内
- ・H27年度時間割
- ・中学校向け資料（学校の概要，標準服の案内，進路情報）
- ・H26年度年間行事予定表

9 感想

松戸南高校はJR武蔵野線・北総線の東松戸駅から徒歩10分のところにあり，周辺には農業地が多いが，これから土地開発が進み住宅街に拓けていきそうな街並みにあった。

推薦入試の忙しい最中，教頭に加藤俊文先生が対応してくださった。まず，学校説明では中学校時に不登校の生徒が多い（午前部48%・午後部78%・夜間部63%）一方で授業出席率（午前部88.4%），不登校回復率（午前部67%）に驚いた。不登校の生徒にも基礎学力の定着やコミュニケーション力の未熟さの修正を図るため，習熟度別授業やTT，教育課程の工夫や学校生活のサポート体制の充実さなど生徒が安心して学校生活を送れるような工夫がみられた。特に生徒を支える教育相談体制は充実しており，教育相談部（教諭10名＋カウンセラー）が中心となってパーソナルチューターの運用やカウンセリング，コンサルテーション，コーディネーションなどを行っていた。

校内見学では講義棟の各階に，各年次団の職員室（もとは授業教室）があり生徒のトラブルにも即対応出来るような体制がみられた。また，自習室や図書室以外にも生徒の空き時間の居場所があるようにと，渡り廊下に手作り座布団を敷いた椅子や自動販売機完備の校内ラウンジが多数あった。廊下には生徒の作品や部活動成果の様子がたくさん飾られており生徒の自己肯定感の向上につながるような工夫がみられた。授業中の生徒の様子は全体的に落ち着いており，私服の生徒もいたが標準服の生徒もだいぶ多くみられた。本校と同様に授業の合間にSHRや清掃（校内はとてもきれいであった）の時間もあるが，学年団やクラス担任の方針によっては朝のSHRや帰りのSHRがあるとのことであった。校内見学後には教務主任の深町久行先生も加わって対応してくださり，2学期制としての年間行事（定期考査期間や8～10月，3月の行事予定が興味深かった）や教育課程・時間割等（1年次は必修科目固定で年次が上がれば選択科目が増える＋三修制向けの科目）の工夫やご苦労など教えていただいた。

最後に教頭先生がおっしゃった言葉で，「本校は外部からよく“ゆるい”というイメージを持たれてしまうが，我々は“やさしさ”という信念で一生懸命生徒と向き合っています。」という強い言葉が印象的で心に響いた。

東京都立新宿山吹高校 訪問 (H27. 1. 29) 報告

1 設立の経緯について

東京都が創設したいいくつかの新しいタイプの実験高校のうち、無学年制の定時制、単位制高校として旧赤城台高校跡地に開校（通信制課程もある）。朝 8 時 40 分から夜 9 時 10 分までの時間帯を 1 部から 4 部までの 4 つの部（4 部制）に分けて、普通科と情報科（都立で唯一の専門学科）の 2 つの学科がある。首都東京の就業構造の特性や潜在的高等学校進学希望者の存在、その他にも通信制のスクーリングや一般向けの生涯学習講座が週末に開講されており、校舎の稼働効率が非常に高い学校である。全校生徒は 669 名で在校生の年齢層は幅広く、大学進学を重視する昼夜間定時制高校を目指している。

2 学習指導について

授業の 1 単位時間は 50 分で、2 時間連続。SHR は無く、清掃も外部の業者に委託している。1 階のエントランスホールには正面にマルチメディアビジョン（生徒への連絡事項放映）があり、伝言システムに ID カードを通して伝言の有無を確認する。その他にも掲示物コーナーや月間行事予定表などのプリントや配付物もこの場所に置かれている。授業の出席は各自が ID カードを教室設置のカードリーダーに通して行う。定期試験等で成績不振な生徒は前期末と年度末に「追試験」がある。履修登録方法は本校と流れが類似。通信制課程もある関係で、年間に併修枠の 10 単位以内であれば通信制課程の科目を併修することができる。生涯学習講座は修了が認定されると互換科目の単位が認定される。総合的な学習の時間（課題別研究や進路研究をレポートのまとめる）とは別にボランティア活動等の社会的な活動を行う「奉仕」（東京都の取組）という教科が 1 単位ある。情報科は専門教科を 25 単位以上修得して卒業を目指す。

3 生活指導について

生徒心得があり校内巡回等もあるが、ほとんど特別指導案件がない。生徒の自己管理や規則正しい生活、社会性を身に付けさせる指導を推進している。二者・三者面談や面談月間等の実施を始め、特に生徒相談室の利用は年間に 10000 件ほど。都立高校では唯一、相談室に担当教員が常駐。

4 情報科について

- ・都内唯一の学科（情報に関する専門学科は全国でも 20 校しかない）
- ・パソコン室は 4 教室あり、他にもネットワーク構築やコンテンツ制作に適した教室あり。
- ・授業で制作した作品や研究成果を大学や専門学校の AO 試験や推薦試験に活用したり、情報専門以外の学部学科への受験にも対応できる。
- ・授業は基礎的科目を学んだ後、システム系科目やコンテンツ系科目が豊富にあり情報活用能力のスペシャリストを育てる授業体系。
- ・情報科教員が 10 名以上勤務しており、気楽に質問できる少人数授業が可能。

5 進路について (H25 卒業生徒総数 133 名)

- ・大学 43.6%
(東京大, 千葉大, 早稲田大, 慶應義塾大, 上智大, 東京理科大, 明治大, 中央大など)
- ・短大 3.0%, 専門 13.5%, 就職 2.6%, 浪人 9.8%, 不明 27.8%

6 頂いた資料について

- ・学校案内
- ・学校要覧
- ・学校生活のしおり

7 感想

新宿山吹高校は東京の中心街にあり、正面玄関前の通りは早大通りといい、近くに早稲田大学のキャンパスがある。校舎の外観は本校と似ておりガラス張りの校舎であった。副校長の山田一郎先生より学校説明や校内見学をご教示いただいた。

学校説明では貴校が定時制高校として進学重視を目指している取組を中心に講話頂いた。公募倍率が高く、通信制課程にも公募人員があり倍率は2倍近くであることに驚いた。また、募集・広報活動にも力を入れており中学校訪問 376 校、年4回の学校説明会の参加者数は延べ1286名、地域等主催説明会8回、塾への広報活動推進など外部への貴校特色の理解推進を積極的に行っていた。その他には都立高等学校が定める欠員補欠募集として年3回の転学募集と年1回、3月募集のみの編入学があり、転学募集の学力検査は合格基準を高く設定し転校者が少ない分、編入学で欠員確保を十分に行っているようである。

校内見学では、情報科の授業参観に始まり、図書室や自習室、食堂やラウンジなどを見てまわった。松戸南高校と同様、生徒が空き時間に談話したりして過ごすスペースや静かに自習できる環境が幾つも設備されていた。新都心の限られた敷地ということもあるのか校庭がなく(体育祭等は自由参加で近くの施設グラウンドを借りる)、代わりに2階にテニスコート2面ほどのルーフグラウンドがあった。地上7階・地下1階の校舎はまるで巨大迷路のようであったが、生徒が自由に様々な場面で学校生活を充実して送るだけの施設は十分に備わっていた。

東京都立美原高校 訪問 (H27. 1. 29) 報告

1 設立の経緯について

2005年に東京都立南高等学校と東京都立大森東高等学校が統合し、2学期制の単位制高校として誕生。開校10年目を迎え、「都立高等学校学力向上推進指定校」や「言語能力向上推進校」としての取組や、総合的な学習の時間における「Gateway To Careers -未来への扉-」プログラム（学校設立時に作られた体系的な学習）の実施を通じた体系的キャリア教育の実践、部活動の関東大会や全国大会出場実績など、学校設立当初以来ある一定の成果を得ており、現在は次の新たなステージに向けて学校経営方針を打ち出した学校づくりを行っている。多彩な選択科目や学校設定科目・教科を設置し、今年度は「キャリア教育を基調とし、上級学校に進学する高等学校」を重点目標に掲げる全校生徒700名の多様な学習型単位制高校。

2 学校の特徴

・100科目の選択科目・・・実際は学年制普通科に近い授業時間や時間割。和太鼓や児童文化、点字手話実習などユニークな学校設定科目（科目によっては外部講師を依頼しており専門外ではあるが教諭を一人つけてTTをとっている場合がある）も多く、多様な学習と進路に関する自分探しが可能である。

・特別活動や部活動、国際交流が盛ん・・・もともと大田区に2つの高校があり、当時は生徒指導難関校であったが、新しい学校設立に向けてまず部活動に着手。現在は部活動加入率が60%まで上昇し、部活動生が中心となって学校行事や大会での活躍と学校を盛り上げている。学校行事には入学後まもなく1年次にアイスブレイクキャンプという全員参加の宿泊行事や3月には合唱祭、その他宿泊防災体験や日本の文化や伝統を体験する活動など体育祭や文化祭以外の行事も多数ある。また、海外からの高校生や教員が毎年来校し交流もある。

・総合的な学習の時間における「Gateway To Careers -未来への扉-」プログラム・・・学校設立当初からつくられている入学から卒業まで系統的かつ体系的なキャリア教育の中心となる活動プログラム。内容としては福岡県立城南高校のドリカムプランのようなもの。

3 OJTについて

9つのグループを編成（9名の在職初任者が授業研究者）し、教員が相互に授業観察やグループ内協議、授業研究協議会を実施し、若手教員の育成とともに、ベテラン教員の授業力の向上にも努める取組。昨年は、授業研究期間は初任研のスケジュールと併せて6月と11月の2回設定。第1回では授業研究者が指導計画に基づいた指導実践と「生徒による授業評価」の結果などを発表し、意見とともに今後の取組を示す。第2回では、「学力向上に資する実践的な授業研究」をテーマに分析した内容を発表。ICTを活用した授業も実

施し、多くの教員が「ICT活用授業」の実践も行っている。今年度の研究テーマは「生徒の躰きを把握し、知識・技能の定着を目指した授業実践」と題して研修中。若手教員もだいぶ絞られて鍛えられている模様。今年度から年度末に研究成果を研究紀要として冊子にまとめる予定。

4 進路について (H25 卒業生徒総数 228 名)

- ・ 大学 45.6%
(駒沢大, 専修大, 拓殖大, 玉川大, 帝京大, 東海大, 東洋大, 日本大, 法政大など)
- ・ 短大 10.1%, 専門 25.9%, 就職 7.9%, その他 (浪人など) 10.5%

5 頂いた資料について

- ・ 学校案内
- ・ MIHARA Q&A
- ・ 学校要覧
- ・ 創立十周年記念誌
- ・ OJT関連資料

6 感想

美原高校は京浜急行「平和島駅」下車徒歩7分のところにあり、学校周辺には住宅マンションが立ち並び、また海岸線にも近く、海苔の養殖が盛んな地域であった。東京都は今まさに推薦入試期間中でお忙しい中、副校長の竹尾展先生に訪問対応をいただいた。

学校紹介では、学年制に近い形で単位制の特徴を活かした学校特色について授業科目や部活動等を中心に説明頂いた。校長室で対応頂いた関係で、途中からは校長の鶴田秀樹先生にもご教示いただいた。東京都が様々なタイプの学校を設置した経緯の説明や開校10年目にしての成果や課題についてもお話いただいた。昨年度に2学期制を3学期制に見直し、今年度から運営実施中。また数ある学校設定科目を生徒の実態にあわせて見直し中。生徒指導面ではアルバイトが届出制となっており、実態把握がまだ出来ていない状態ともっと部活動に参加して高校生活を充実させたいが現状まだ厳しい状況とのこと。多様な学習型の単位制高校（東京都は全日制の単位制普通科の方向性として他に進学重視型がある）の方向性として現在は学校も落ち着き部活動も盛んになってきたので、今後は上級学校に進学する単位制高校普通科を目指すとおっしゃられた。

校内見学では廊下を活用して、生徒の部活動の成果や国際交流の紹介コーナー、総合的な学習の時間で取り組んでいる「奉仕」の活動として災害避難に関する取組や調べ学習の発表掲示など松戸南高校と同様に生徒の頑張っている様子が垣間見えた。また部活動が盛んになってきていることもあり、弓道場やトレーニング施設など設備も充実していた。訪問時間がちょうど放課後になる頃で、部活動の様子や合唱祭の準備期間中ということもあり、たくさんの合唱練習風景も見させて頂いた。

単位制高校普通科として独自の方向性を打ち出し、学校側も変わろうとしている雰囲気を感じさせられた。

東京都立新宿高校 訪問 (H27. 1. 30) 報告

1 設立の経緯について

1921年に開校した東京府立第六中学校を前身とする歴史ある「文武両道」の伝統校。2003年より進学重視型単位制高校に移行。2007年より難関大学への進学実績向上を目指す高校として、「進学指導特別推進校」に指定される。全校生徒は959名。

2 学習指導について

『新宿システム』（進路・学習・生徒指導を一体化した計画）を推進し、生徒の第一志望実現を叶える。そのために進路指導部を中心に組織的に学力定期観測、目線合わせ（高校入試分析、学力調査分析2回、週末課題や長期休業中の課題の改善、土曜補習・夏季講習や追試の工夫、大学入試問題研究、予備校参観など）を実施し、教職員の共通理解を深め進路指導に還元している。補習・講習（年間1700時間目標）、勉強合宿、学年集会等で生徒の学力向上や自己啓発を図りながら、三年間の進路関係行事（在校生はほとんど塾に通うこともなく、学校中心の生活で部活動加入率も90%）の充実に力を入れている。文化祭などの学校行事も進路と結び付けて団体戦の意欲向上につなげている。また、保護者の協力も重要視し、保護者会は土曜日実施（勤務者は長期休み時に代替）。保護者向けの講演会や進路報告会なども多数ある。

3 進路について（H25卒業生徒総数258名）

- ・現役国公立大81名（京大、東工大、東京外大、東北大など）、現役早慶上理大132名（現役大学進学率80.1% 万が一、第一志望不合格でも第二・第三志望校に合格）

4 頂いた資料について

- ・学校案内
- ・学校要覧
- ・2014年度学習塾対象説明会資料（大学入試合格結果、進路指導説明等）
- ・学校説明会用補助資料（入学者選抜学力検査について等）

5 感想

訪問最終日、まず宿泊先のホテルから出発すると雪が降っており、帰りの飛行機がストップしないかと心配になった。訪問最後の新宿高校は、新宿駅近くにあるが新宿御苑に隣接するため、新宿という喧騒の中にもかかわらず緑に囲まれた環境の中にあった。正門から校舎に入ると生徒が屋内で体育をしていた。玄関入ってすぐのところが多目的スペースになっており、雪や雨の日は屋内活動で体育館以外にも利用しているようだ。新宿山吹高校と似ており校舎の敷地面積が狭い分、上手に校舎を利用しているようであった。対応してくださった先生は教育相談担当で広報担当の稲本茂先生。まず始めに学校紹介として進路指導面を中心に説明いただいた。上記でも書いたが、進路指導部のシステムが出来上がっており、現在はさらに中期的目標として「進学指導重点校」を目指し、現役東大合格者

の継続など次の課題に向けて取組を行っている模様。予備校や学習塾とのネットワークや保護者会や保護者向けの進路研修会も密にしており大学進学への体制がとても充実していた。広報活動においては年間一万部印刷し、現時点で中学校や教育関係機関に合わせて八千部は配布しているとのことだった。交通の便がよく、進学実績や部活動に力をいれているという点では人気が高い高校の一つといえるようである。(推薦 7.59 倍, 一般 2.15 倍と高倍率)

また、校内見学においては時期的に卒業目の生徒が多数、自習室にて黙々と自習をしていた。自習室も様々な場所や形体があり、広い教室や三年生優先部屋や個室など色々あった。職員室は広く本校職員室の 6 倍近くあり、全ての教科が入っているようで生徒の質問も頻繁にくる雰囲気があった。単位制の長所を生かして各教科習熟度クラス(都立高校最大規模で展開中)をとっていたが、学力の高いクラスは 40 名ぎっしり、低いクラスは少人数制で手厚く指導していた。数学の授業をいくつか参観させてもらえ、とても刺激を受けた。生徒指導面では服装容儀検査を定期的に行っているようであるがほぼ問題行動等もなく、生徒は落ち着いており授業中は活気が見られた。

【全体を通して】

今回、2校の単位制高校普通科(美原・新宿)と2校の定時制高校(松戸南・新宿山吹)を学校訪問したが、それぞれがそれぞれに学校特色をうち出しておりとても刺激的な訪問となった。

単位制高校普通科としては学年制に近いが多様な学校設定科目をそろえ、将来の夢を探しながら進路決定、そして進路実現を目指す美原高校と、ほぼ学年制に近いが単位制の特色を活かして習熟度授業など進学進路指導體制に力を入れている新宿高校を訪問して、単位制としても色々なケースがあることを知れてよかった。地方部と都心部とでは社会背景や土地環境の違いなどで教育視点において必ずしも比較はできない部分があるとは思いますが、同じ教育現場のあり方としてとても参考になり、自分としても視野がいくらか広がり、様々な点で考える機会ももてた。

また定時制高校としては三部制で基礎学力向上と不登校対策に力をいれている松戸南高校と、四部制として様々な年齢や個人の生活状況に対応して学習環境の整っている新宿山吹高校を訪問して、定時制高校についてはほぼ無知であった私としては非常に勉強になった。

4つの学校を訪問して特に感じたことは「どのような生徒を求め、そのために具体的にどのような取組や対応を実際に行って検証と改善をしているのか」という点において日々苦勞されている部分を感じ取れた。学校要覧や学校HPにて学習指導や生活指導、進路指導などさまざまな部分で柱となるテーマについての中期的目標や重点目標に対する現在の数値目標と達成度、次年度以降への課題と対策が報告書としてまとめられており、非常に分かりやすかった。自分が日頃数字を扱うからかもしれないが、学校としての方向性や理解を深める意味ではいいなと感じられた。また教育相談と進路相談がまとめられており、進路に関する相談や不登校の生徒への悩み相談など、進路指導の中で学校全体の連携体制を密にとっている学校もあり新鮮に感じられた。

今回の学校訪問は自分にとって刺激的で実りあるものとなった。他校訪問を終えて改めて、本校のいい部分や考えるべき部分が違った角度から見えて参考になった。これまで訪

問するにあたりアドバイス等含めてご指導や手続きいただいた先生方をはじめ、このような機会をいただいた開陽高校と鹿児島県に感謝申し上げます。